

施策パッケージ名	次代を担う人材の育成
担当府省	文部科学省
施策パッケージの目標	第4期科学技術基本計画で掲げられた「次代を担う人材の育成」や成長戦略実行計画で掲げられている「理科教育の強化と理系進学促進」を推進するため、先進的な理数系教育を行う学校の支援や科学技術コンテストの支援などを行い、優れた才能を有している子どもの才能をさらに伸ばすことを目的とする。
予算要求額等の合計	平成24年度 41億円（平成23年度 36億円）
実施期間	平成23年度～平成27年度
<p>【全体講評】</p> <p>○次世代を担う人材の育成は、天然資源に乏しく、また、今後も人口減少が見込まれる我が国において、科学技術立国を実現していく上で重要かつ緊急を要する課題であり、その重要性に鑑み、重点施策パッケージとして資源配分の重点化を行うべき対象と認められる。</p> <p>○事業の具体的な目標とスケジュールを明示化することが必要である。</p> <p>【目的・目標について】</p> <p>○次代を担う科学技術人材の育成を図る上で、優れた子どもの才能を一層伸ばすことは重要である。</p> <p>【アプローチについて】</p> <p>○基本的に妥当であると認められる。スーパーサイエンスハイスクールについては、実績もあり期待できる事業であるが、それ故に、対象校の増加を図るだけでなく、教育行政との連携の下に、対象とされない多くの学校に対する横展開の取組みなど、これまでの成果を教育行政の改善につなげていくことが重要である。</p> <p>【実施体制について】</p> <p>○概ね適切な実施体制と言えるが、全体目標の達成に向けて、教育行政との連携を含めた文部科学省全体としての取組みを一層強化していくべきである。</p> <p>【その他】</p> <p>○サイエンス・パートナーシップ・プラットフォームについては、その実施過程において、事業を構成する各プログラムの実績を</p>	

検証して柔軟に改善を図っていくことが望まれる。理数学生育成支援事業については、大学側の自由度は尊重しながらも、成功事例の共有を含めて効果的・効率的な運用を目指すべきであり、またサイエンス・インカレについては、国内に留まらず世界を視野に入れた展開を目指してほしい。

○国際的に見て、日本の女子高生のための理数科教育の機会の一層の充実を図ることが望まれるので、この視点からも何らかの対応を検討してほしい。